

一度だけのれきはく見学 どう連携？どう活用？

東村山市立青葉小学校 伊東 大介
(前任校：渋谷区立猿樂小学校にて実践)

1. 実施学年：小学校第6学年 教科・領域：社会科・総合的な学習

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

①単元名：「江戸図屏風の世界をのぞいてみよう！」

②単元のねらい：屏風絵に描かれたさまざまな身分の人々の姿や、江戸の社会の様子を観察することにより、江戸の社会に対する具体的なイメージをふくらませ江戸時代の時代像形成の一助とする。

③博物館との関連

活用した資料：「江戸図屏風ポスター」（事前・事後）

「江戸図屏風」パズル（事前）

博物館スタッフによる対応：ガイダンス

歴博の紹介＋単眼鏡の使い方＋展示室の紹介
プログラム

江戸図屏風 [江戸図屏風を読み解く・児童からの質問]

3. 指導計画（8時間扱い）

過程	時間	学習活動○ 学習内容●	指導上の留意点
導入	1	○江戸図屏風を見てみよう① ●江戸図屏風の概要について知る。 ・「江戸図屏風パズルを完成させよう」 ・江戸図屏風のパズルを3つのグループに分かれて組み立て、最後に1つに合体させ全体像を見る。	・自由に見て、発見したことをノートに書く。
展開1	2	○江戸図屏風を見てみよう② ●江戸図屏風を見て気づいたことなどを基に話し合う。 ・「江戸図屏風を見て、発見したことを発表してください」 ○江戸図屏風を見てみよう③ ●江戸図屏風の学習から何を見てみたいか焦点化する。 ・「歴博ではどの部分に関係する展示をよく見てみたいですか」 ・「武士について見てみたい」「江戸の人の生活を見てみたい」	・必ず一人1つ発表させる。 ・どんなことでも取り上げ、価値づける。 ・教員は事前に博物館のスタッフと打ち合わせ、学習のポイントを絞っておく。 ・見る内容を焦点化しておく。

展開 2	3	<p>○れきはくに行こう①</p> <p>●れきはくで展示の見方を学習する。</p> <p>・「博物館のスタッフの人に江戸図屏風について詳しく教えてもらおう！」</p> <p>○れきはくに行こう②</p> <p>●寺子屋れきはくで江戸時代の寺子屋の学習を体験する。</p> <p>・「寺子屋で、江戸時代の子どもの勉強を体験しよう」</p> <p>○れきはくに行こう③</p> <p>●江戸時代について各種の資料から時代の様子を考察する。</p> <p>・「江戸図屏風を見て、江戸時代について、もっと知りたいと思ったところを見てみよう」</p>	<p>・質問もしてよいことを伝える。</p> <p>・自分たちの興味関心によって、寺子屋の体験をする。</p> <p>・見る内容は、事前に学校で決めておく（変更は構わない）。</p>
(発展)	(1)	<p>○れきはくに行こう④</p> <p>●江戸以外の時代について展示を見て学習する。</p> <p>・「江戸時代についての学習を活かして他の時代の様子も見てみよう」</p>	<p>・れきはくの江戸時代以外の展示から展示物の見方・考え方を学ぶ。</p>
まとめ	1	<p>○江戸時代はどんな時代？</p> <p>●「江戸はどんな時代？」を作文し、学習前のイメージと比較する。</p> <p>・「江戸図屏風や歴博での江戸時代の学習を通して、江戸時代はどんな時代だと思いましたか」</p>	<p>・文章にまとめる。</p>

4. 実践の概要

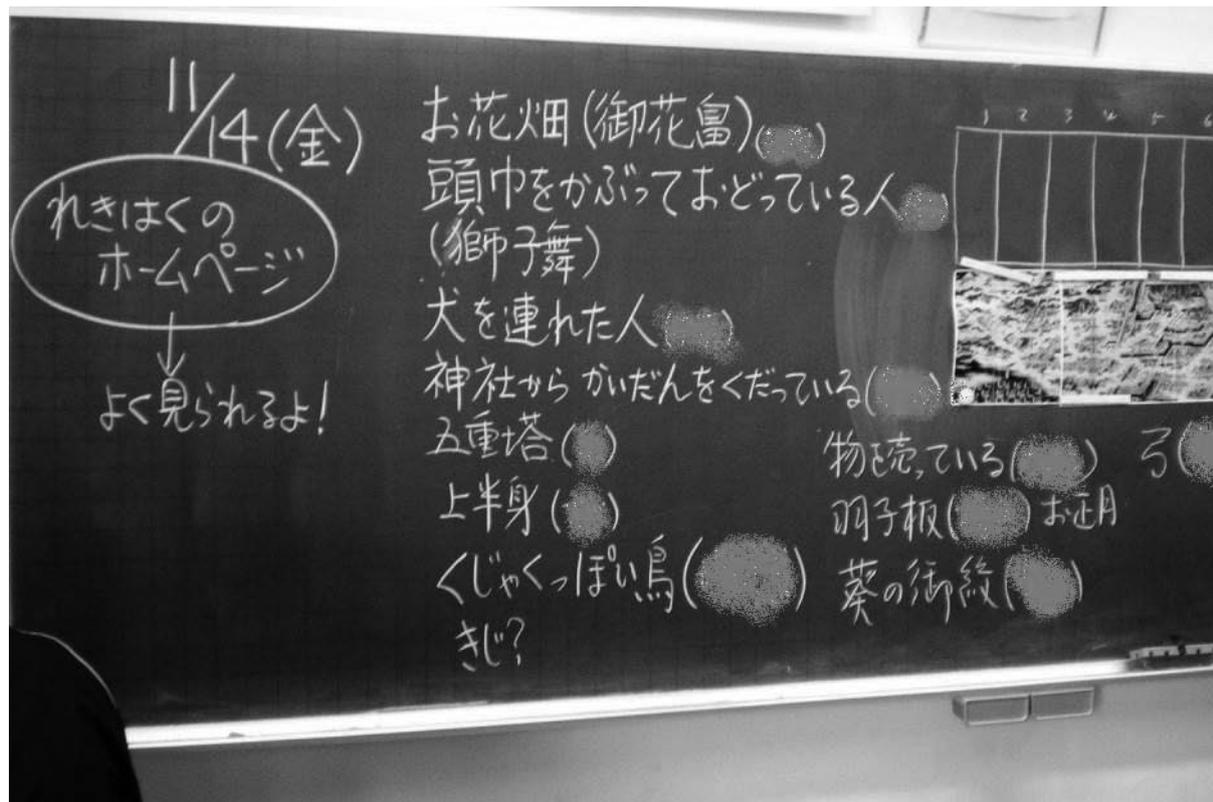
2008年11月13日（木曜日）

○江戸図屏風を見てみよう①



- 江戸図屏風の概要について知る
- ・「江戸図屏風パズルを完成させよう」
- ・江戸図屏風のパズルを3つのグループに分かれて組み立て、最後に1つに合体させ全体像を見る。
- ★グループごとに試行錯誤しながら集中して取り組む。
パズルは興味関心を高める導入の教材として優れている。

2008年11月14日（金曜日）



○江戸図屏風を見てみよう②

●江戸図屏風を見て気づいたことなどを基に話し合う

・「江戸図屏風を見て、発見したことを発表してください」

★どんな発見も大切に扱うことは、どの教科でも大切であるが、特に今回のような授業展開では、一人ひとりの発見や考えを大切に扱うことが、学習のポイントに関係する。

2008年11月27日（木曜日）

○れきはくに行こう①

●れきはくで展示の見方を学習する

・「博物館のスタッフの人に江戸図屏風について詳しく教えてもらおう！」

★学習の中心となる展示物「江戸図屏風」について、事前学習の段階で出た質問を博物館へ送付し、当日の解説に役立ててもらった。当日は、会議室で大型のタッチパネルを駆使して、「江戸図屏風」について解説を行ってもらった。





★今回は、特設单元（教科書では発展的な取り扱いの部分）であったが、江戸時代のイメージを「江戸図屏風」を学習の中心として学習した。これにより、博物館での学習の際も、江戸図屏風を中心に江戸時代の展示を焦点化して学習することができた。

5. 成果と課題（博物館の活用方法を中心に）

【成果】

- ・江戸図屏風に焦点化して学習を展開したので、当日れきはくで見学したものの中で、最も印象的な物が江戸図屏風であったことは、事前の学習が活かされたと解釈することができるのではないか（下記掲載の資料参照）。

【資料】 6年生れきはく見学後アンケート

①第3展示室で一番印象に残った展示は？

6-1	22名	6-2	25名	6年生全体
江戸図屏風	9	江戸図屏風	9	江戸図屏風 18
旅する庶民	2	寺子屋	5	寺子屋 6
昔の家（旅籠）	2	からくり人形	4	昔の家（旅籠） 4
楽器（笙）		昔の家（旅籠）	2	からくり人形 4
踏み絵		着物		旅する庶民 2
家光の馬		アイヌとの交易		江戸橋広小路模型 2
人が殺されていた（からくり）？		商家		
江戸城の古写真		見世物		
（鎧と銃）←第2展示室？		十字架（踏み絵？）		
江戸橋広小路模型		模型		
		江戸橋広小路模型		

②もう一度みたいものは？（第3展示室に限らず）

6-1	6-2	6年生全体
江戸図屏風	江戸図屏風	江戸図屏風 13
江戸橋広小路模型	寺子屋	第5展示室 4
第2展示室	第5展示室	寺子屋 2
第5展示室		江戸橋広小路模型 2
	銅鐸や土器	昔の家（旅籠） 2
笙	書物の展示	
着物	第1・2・4展示室	
三彩の壺	朝廷の仕組み	
はにわ	朱印船	
船	十字架	
模型	人形	
全部	畳の部屋	
江戸城の古写真	足跡	

[課題]

- 江戸図屏風はあくまでも江戸時代の様子を表す物の1つであり、江戸図屏風以外の展示物にも目がいくように工夫することで、さらに江戸時代のイメージが広がるのではないかと。せつかく関連する展示物が多数あるので、その活用を図ることも大切である。(指導案では「れきはくへ行こう③」の部分である)。

6. わたしの考える歴博活用案

6 学年	社会・総合的な学習	「江戸図屏風の世界をのぞいてみよう！」	9 時間
------	-----------	---------------------	------

①学習のねらい及び指導要領との関連

ねらい：屏風絵に描かれたさまざまな身分の人々の姿や、江戸の社会の様子を観察することにより、江戸の社会に対する具体的なイメージをふくらませ江戸時代の時代像形成の一助とする。

指導要領との関連

(1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

→れきはくの展示物を活用しての学習は、上記の内容である。「歴史を学ぶ意味を考える」の部分については、体験的な学習活動を取り入れることも大変有効であろう。

→「歴史を学ぶ意味」については、教師が「なぜ歴史を学ぶのか」ということについて、考えを持っていることが重要であり、教師の学びの過程を、児童も経験できることが大切と考える。

カ 歌舞伎(かぶき)や浮世絵、国学や蘭学(らんがく)について調べ、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことが分かること。

→この具体的な内容をれきはく展示物から学習する。

(以上、下線部は小学校学習指導要領の第2節社会、第6学年、2内容より抜粋、太字は伊東)

小学校の歴史学習では、通史的に展開し知識を網羅的に覚えさせるのではなく、国土に残る遺跡や文化財を調べたり、年表や文章資料などの資料を活用したりして、人物の願いや働き、文化遺産の意味などを考え、我が国の歴史に対する興味・関心や愛情を育てるようにすることを求めている。資料の活用に当たっては、人物の肖像画や伝記、エピソード(逸話)などによって人物への興味・関心を高めることも大切である。また、地域の博物館や郷土資料館などの学芸員から話を聞くことは、歴史的な事象を具体的に理解する上で有効な学習である。指導計

画を作成する際には、例えば、アからケに示された歴史的事象の中で重点的に扱うものと関連的に扱うものを明確にして時間のかけ方に軽重をつけるなど、歴史的事象の取り上げ方を工夫し、小学校の歴史学習のねらいが一層効果的に実現できるようにすることが大切である。

→興味・関心を高めるためには、具体的な物を展示する博物館の活用が有効なことは論を待たず、学芸員の解説の有効性についても位置づけられている。
また、「重点的」と「関連的」・「軽重」が大切であることも示されている。(本稿では「焦点化」と表現)。

(以上、下線部は小学校学習指導要領解説社会編の第3節第6学年の目標と内容、2内容、内容の取扱いより抜粋、太字は伊東)

②使用資料

「江戸図屏風ポスター」(事前・事後)

「江戸図屏風」パズル(事前)

③展開(太字部分が、改良部分)

過程	時間	学習活動○ 学習内容●	指導上の留意点
導入	1	○江戸図屏風を見てみよう① ●江戸図屏風の概要について知る。 ・「江戸図屏風パズルを完成させよう」 ・江戸図屏風のパズルを3つのグループに分かれて組み立て、最後に1つに合体させ全体像を見る。	・自由に見て、発見したことをノートに書く。
展開1	2	○江戸図屏風を見てみよう② ●江戸図屏風を見て気づいたことなどを基に話し合う。 ・「江戸図屏風を見て、発見したことを発表してください」 ○江戸図屏風を見てみよう③ ●江戸図屏風の学習から何を見てみたいか焦点化する。 ・「歴博ではどの部分に関する展示をよく見てみたいですか」 ・「武士について見てみたい」「江戸の人の生活を見てみたい」←ここをさらにはっきりさせる。	・必ず一人1つ発表させる。 ・どんなことでも取り上げ、価値づける。 ・教員は事前に博物館のスタッフとうち合わせ、学習のポイントを絞っておく。 ・見る内容を焦点化しておく。
展開2	4	○れきはくに行こう① ●れきはくで展示の見方を学習する。 ・「博物館のスタッフの人に江戸図屏風と第3展示室について詳しく教えてもらおう！」	・質問もしてよいことを伝える。

<p>まとめ</p>	<p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸図屏風に描かれていることと、第3展示室の展示内容の関連について知る。 ○れきはくに行こう② ●寺子屋れきはくで江戸時代の寺子屋の学習を迫体験する。 ・「寺子屋で、江戸時代の子どもの勉強を体験しよう」 ○れきはくに行こう③（90分） ●江戸時代について各種の資料から時代の様子を考察する。 ・「江戸図屏風を見て、江戸時代について、もっと知りたいと思ったところを十分に見てみよう」 ○江戸時代はどんな時代？ ●「江戸はどんな時代？」を作文し、学習前のイメージと比較する。 ・「江戸図屏風や歴博での江戸時代の学習を通して、江戸時代はどんな時代だと思いましたか」 ●作文をグループ内で読みあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの興味関心によって、寺子屋の体験をする。 ・見る内容は、事前に学校で決めておく（変更は構わない）。 ・第3展示室のみ活用。 ・文章にまとめる。 ・言語活動の充実。
------------	----------	--	--

